

ベルリンの秋

上

BERLIN
BERLIN
BERLIN

春江一也

kazuya harue



集英社インターナショナル

ベルリン

BERLIN
BERLIN
BERLIN

春江一也

kazuya harue

集英社インターナショナル

ベルリンの秋 あき (上)

一九九九年 六月三十日 第一刷発行

著者 はるえ かずや 春江一也

発行者 島地勝彦

発行所 株式 集英社インターナショナル

郵便番号 一〇一八〇五〇

東京都千代田区一ツ橋二一五一一〇 共同ビル六階

電話 出版部 (〇三) 五二一一二六三三

発売所 株式 集英社

郵便番号 一〇一八〇五〇

東京都千代田区一ツ橋二一五一一〇

電話 販売部 (〇三) 三三三〇一六三九三
制作部 (〇三) 三三三〇一六〇八〇

印刷所

中央精版印刷株式会社
株式会社美松堂

製本所 中央精版印刷株式会社

本書の内容の一部または全部を無断で複写・複製することは法律で認められた場合を除き、著作権の侵害となります。落丁・乱丁本が万一ありましたら、集英社制作部宛にお送りください。送料集英社負担でお取り替えます。定価はカバーに表示してあります。

©1999, Kazuya Harue

ベルリンの秋

上

目次

プロローグ

13

第1章

エルベの流れ

23

第2章

東方政策

57

第3章

ラズリヤートカ

87

第4章

謀略

117

第5章

ワルシャワ・ゲットー

153

第6章

事故

193

第7章

国家承認

233

第8章

星座

265

第9章

ハウプトシュタット・ベルリン

293

第10章

聖夜

329

第11章

暗闘

361

第12章

スリーパー

393

第13章

薔薇

427

下

目次

第14章 越境未遂

第15章 指輪

第16章 別離

第17章 ユーロ・コミュニケーションズム

第18章 独裁

第19章 老人

第20章 搜索

第21章 ラインの流れ

第22章 薔薇の月曜日

第23章 誕生

終章 崩壊

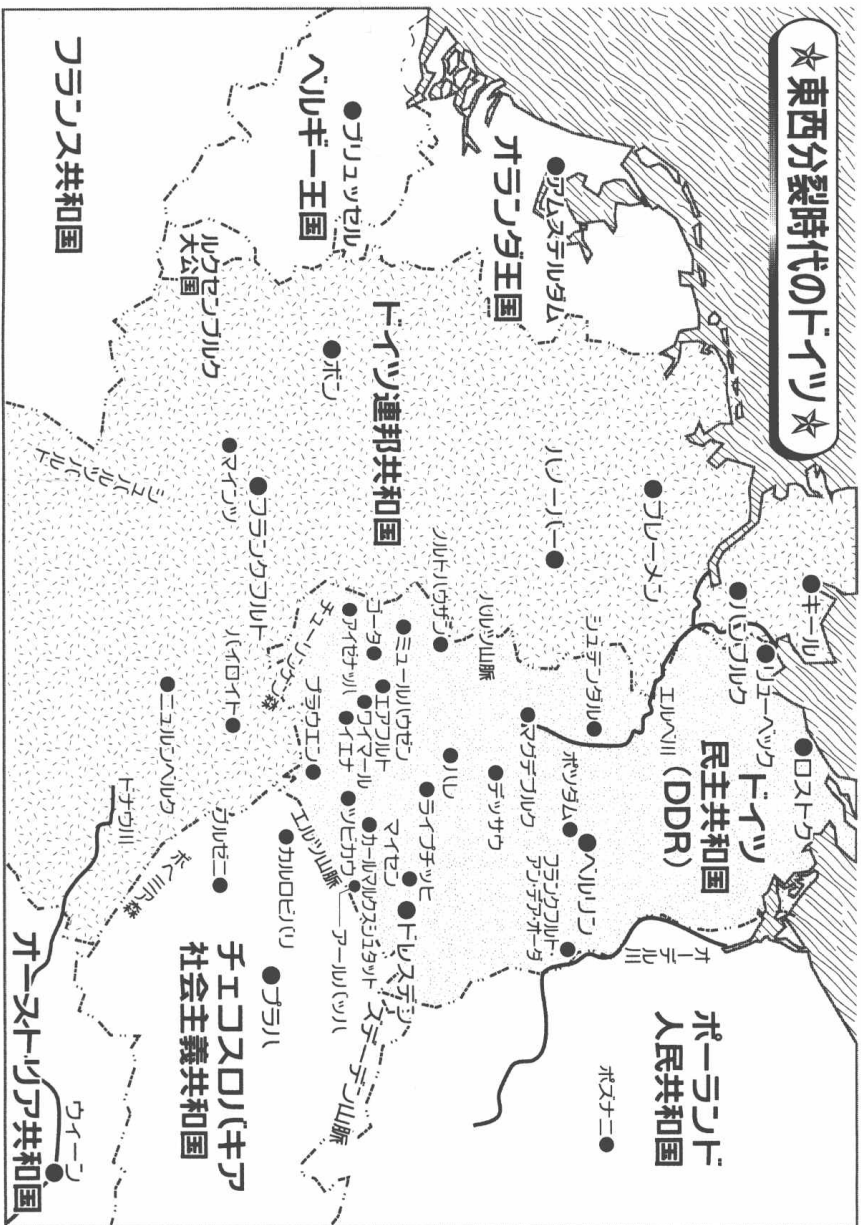
エピローグ

参考文献一覧

装丁 畠中ゆかり

作図 望月 茂(フロッシユ)
写真 ボンカラー・フォトエイジェンシー

★東西分裂時代のドイツ★





☆ 「壁」で分割された ☆
ベルリン中心部

東ベルリン

西ベルリン

帝国議会議事堂

ライプティツェルゲルン

ゲート像

楽器博物館

ポツダム広場

ライプティツェルゲルン通り

日本大使館

連合大使館

ハートビツェル大聖堂

コラステーム

コラステーム

コラステーム

コラステーム

コラステーム

コラステーム

コラステーム

ボナテ博物館

ベルカマツ博物館

コラステーム

コラステーム

国立歌劇場

国立歌劇場

国立歌劇場

国立歌劇場

国立歌劇場

国立歌劇場

国立歌劇場

国立歌劇場

ベルカマツ博物館

ベルカマツ博物館

ベルカマツ博物館

ベルカマツ博物館

ベルカマツ博物館

ベルカマツ博物館

ベルカマツ博物館

ベルカマツ博物館

ベルカマツ博物館

ベルカマツ博物館

ベルカマツ博物館

ベルカマツ博物館

『ブラハの春』を読んでくださった多くの読者の皆様に

シルビアと亮介のその後を物語り……、

共産党独裁の抑圧から逃れるため「ベルリンの壁」を超えようとして、
国境警備兵に狙撃され非命に倒れた人々のご冥福を祈り……、

忍耐と絶えざる励ましをいただいた方々に感謝し……、

gewidmet auch noch meiner liebsten ELKE und meinem Sohn……、

わが最愛のエルケに、そしてわが息子に捧げる。

ベルリンの秋

上

プロ ロ ー グ

一九七〇年三月——。モスクワ、ジェルジンスキー広場二番地、帝政ロシア時代は保険会社のビルであったというソ連KGB（国家保安委員会）本部だが、重苦しく陰惨な雰囲気（なまけ）を漂（ただ）よわせるのは、KGBという特異な抑圧機関の歴史が醸（かも）す、特殊なエーテルのせいなのだろう。

その広大な建物、三階の奥まった一角、ドイツ問題担当特務機関長室。午後二時を少し回った時刻だった。古びた巨大な執務机を挟み、二人の男が向き合っていた。

高い天井も四方の壁も黒褐色の板張りのせいで、部屋は洞窟のように薄暗い。ドアも防音のため黒い革張りである。内庭に面する二重窓から、白いレースのカーテンを通し差し込む鈍い自然光を受け、高い背もたれの椅子（いす）に座って黙考する男が初めて口をきいた。

「それでこの人物が、きみの推理とどう結びつくのかね。スミルノフ大佐」

質問したのはアンドレイ・イワノフKGB中将。KGBきつてのドイツ通である。頑固一徹のグロムニコ外務大臣でさえ、一目も二目も置く経験と見識の持ち主だった。巧みなドイツ語を話す。もともと文官、いや外交官である。小柄だが精悍（せいけん）な風貌（ふうぼう）は六十を過ぎたという年齢を感じさせない。暗褐色の髪にかなり白いものが交じっているのに、どう見ても五十代にしか見えない。もっとも目の下に薄い隈（くま）が浮いている。

イワノフはスターリンに信頼され、若くして国際政治担当個人秘書に抜擢（ばつてき）された。一九三九年八月、スターリンを補佐し、ヒトラーの外務大臣リッペントロップと独ソ不可侵条約締結の秘密交渉をした。その当時のモロトフ外務大臣を差し置くほどの辣腕（らつわん）だった。

そして第二次世界大戦の勃発（はつぱつ）である。連合国の一員としてナチス・ドイツを撃破する重要な役割を果たしたソ連は、その戦後処理のために、ドイツ本土はもちろんのこと、特別に首都ベルリンをも、米、英、仏そしてソ連の四大連合国で分割することを主張した。これはスターリンが、若きイワノフ